びわこ成蹊スポーツ大学
BIWAKO SEIKEI SPORT COLLEGE

スポーツ庁委託事業

「令和4年度大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」

事業実施報告書

2022年10月びわこ成蹊スポーツ大学は、スポーツ庁（委託先 一般社団法人大学スポーツ協会）が公募した令和4年度「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」に採択されました。

本事業は、地域の課題に対して、大学の有するスポーツ資源を有機複合的に活用し、自治体等の地域の組織・団体と十分に連携・協力し、解決する取り組みをモデル的に実施すること、及びその取り組みモデルの効果を検証し、全国へ横展開することを目的としているものです。

本学は、研究資源や施設環境を活用し、‘子どもから高齢者まで’の 全世代に対し、『生涯にわたるスポーツ習慣・文化を地域に根付かせる』ことを達成するために本事業に取り組みました。

～ スポーツで滋賀の子どもたちを元気に ～
～ スポーツを通じ健康寿命の延伸を生涯にわたってバックアップ ～
～ 地域に愛される大学へ ～

本学の研究資源や施設環境を活かした取り組み

課題	社会的課題	解決施策	
1	全国的な課題でもある子どもたちの運動離れ。	①	**キッズプログラムの実施** 子どもの頃からの「運動習慣」を楽しさの中から創り出す。
2	中学生からの世代に対し、主体性の育成方法が定まらない、経験に依拠し科学的裏付けのないコーチングなど、既存のスポーツ概念が根強く残っていること。	①	**ASE活動の実施** 社会性を養う体験活動ASE（Action Socialization Experience）活動をチームビルディング研修として実施することで、新たなスポーツの価値を構築する。
		②	**ASSの稼働** パフォーマンスを科学的測定によって評価することで、新たなスポーツの価値を構築する。
		③	**部活動指導の学生派遣** サステナブルな部活動環境にすることで、新たなスポーツの価値を構築する。
3	働き盛り世代・子育て世代やリタイア後のシニア世代は運動機会が減少してしまうこと。	①	**公開講座の開講** 楽しくスポーツに挑戦する機会を提供し、健康に年を重ねるための契機となる。
		②	**文化講演会の開催** 継続したスポーツへの興味関心の涵養、意識啓発をし、健康に年を重ねるための契機となる。
		③	**滋賀レイクスサポーター活動** 地元にあるプロスポーツチームの応援を通じて、スポーツへの興味を育むとともに、地域密着型の応援文化の醸成及び地域の振興に繋げる。

キッズプログラムの実施
子どもの頃からの「運動習慣」を楽しさの中から創り出す。

▷*実施概要*

幼稚園・保育園・子ども園への巡回コーチングとして、子ども世代から体を動かすこと、スポーツの楽しさを知り習慣化することにより、健全な心身の発達にあたって欠かせない「運動習慣」を楽しさの中から創り出すことを目的に、概ね4歳児・5歳児（年中・年長）の子どもを対象にし、運動能力の神経発達を促す動き、すなわち、運動あそびのプログラムを展開。

また、より多くの滋賀県の子どもたちに、運動あそびを通じてスポーツを好きになってもらうことを目的に、4歳児（年中）から小学3年生までの子どもを対象に、各年齢相応の動作で、達成感やもっとやりたいという気持ちを促す内容の運動あそびを体験するキッズフェスティバルを開催。

巡回コーチング　（対面型）		
学生リーダー	196 名	
大津市・高島市・草津市	15 園 60回	
参加 児童	2,073 名	
巡回コーチング（動画配信型）		
大津市・高島市	5 園	
参加児童	76 名	
キッズフェスティバル		
詳細	学生リーダー	参加者
第 1 回 4/24 （土）@本学	30 名	98 名
第 2 回 6/26 （日）@甲賀市	31 名	138 名
第 3 回 8/27 （土）@長浜市	25 名	68 名
第 4 回 10/1 （土）@守山市	28 名	152 名
第 5 回 11/13 （日）@高島市	35 名	67 名
参加者計	149 名	523 名

※2022年度見込み

≪動画≫ びわスポ「じゃんけん体操」
https://www.youtube.com/watch?v=NTfkScrC1Ec

≪動画≫ びわスポキッズフェスティバルin高島
https://www.youtube.com/watch?v=cN10EjGzshs

▷*今後の展望*

子どもの運動離れと体力低下が課題となっている現代において、今後も、本取り組みに関する関心は高く、ニーズがあるため、滋賀県内全域でキッズフェスティバルを開催し、一人でも多くの子どもたちにこの活動からスポーツの楽しさを伝えていく。

また、小学校高学年の子どもたちに対しても、競技要素を取り入れた専門性を持った運動遊びの展開ができないか検討し、実施を目指す。

ASE活動の実施

社会性を養う体験活動ASE活動をチームビルディング研修として実施することで、新たなスポーツの価値を構築する。

▷実施概要

ASE（Action Socialization Experience）活動とは、社会性を養う体験活動のことで、自然と向き合いながら、PLAY①SAFE、②FAIR、③HARDそして④FUNをキーワードとして、一人では解決できない肉体的・精神的課題に対し、メンバー同士で能力を出し合い、協力し合いながら、課題を解決するプログラム。ASE活動によって得られる気づきや人間としての成長は、デジタル化が進む現代社会に求められている要素ともいえる。

研修効果として何を求めているかにより、プログラムを編成し、一連のプログラムは全体オリエンテーション、アイスブレーキングを実施した後に、４ｍの壁をグループ全員で乗り越える「ウォール・斜めウォール」や、丸太の上に乗りながら順番を入れ替える「ラインナップ」などを実施し、最後に体験を学びに落とし込む目的として、ふりかえりの時間を設ける内容とした。

ASE 活動～チームビルディング研修～	
教育関係団体	560 名
スポーツ団体	91 名
企業団体	87 名
参加者計	738 名

※2022年度見込み

≪動画≫ＡＳＥ活動
https://www.youtube.com/watch?v=hKipoH-SDPY

▹*今後の展望*

ASE活動は、これまで競技力や組織力の強化・向上を目指すプロスポーツチームや一般企業に至るまで、幅広い方々を対象に活用されてきたが、今後は、本取り組みの認知度を高めるために、本学がパイオニアとして、県内企業の研修や中・高等学校、スポーツチームのチームビルディング研修として実績を積み、より一層の充実を図っていく。

ASSの稼働

パフォーマンスを科学的測定によって評価することで、新たなスポーツの価値を構築する。

▷実施概要

より高いパフォーマンスを求めるアスリートに対し、それぞれの専門種目で競技力向上に貢献できるようフィジカル測定を実施する施設ASS（Athlete Support Station）を設立。無酸素性パワー測定や有酸素性パフォーマンス測定及び体成分分析装置を用いてのフィジカル測定や、GPSによる動作分析を実施。また、定期的な測定機会を与え、トレーニング前後の比較検討が科学的に検証できる環境を整えることで、個々のモチベーション向上に繋げる。

また、2022年10月には、「ハイパフォーマンススポーツセンターネットワーク連携機関指定要件」を満たす機関として、独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）から指定を受けた。

ASS での体力測定	
本学学生　7団体	109 名
高校生　　1団体	21 名
スポーツ　3団体	56 名
参加者計	186 名

※2022年度見込み

≪動画≫ＡＳＳの紹介
https://youtu.be/cL4WWwQh45Q

▹*今後の展望*

今後は、同法人内にある大阪成蹊大学データ・サイエンス学部と連携し、より高度的なデータ分析が可能となることで、ASSの機能を高める。「ハイパフォーマンススポーツセンターネットワーク連携指定機関」として、全国のアスリートのパフォーマンス向上にも寄与していく。

また、アスリート向けの施設に留まらず、簡易の健康チェック施設として、健康増進を目的とした体力測定の実施など、地域住民の健康管理に役立てる取り組みに向けて準備を進めていく。

部活動指導の学生派遣
サステナブルな部活動環境にすることで、新たなスポーツの価値を構築する。

▷実施概要

新しい時代の教育に向けたサステナブルな学校指導・運営体制の構築のための、学校における働き方改革に関する総合的な方策が掲げられる中、部活動指導の外部委託について、指導者派遣を介して学生が部活動指導の一部を担当するという、学生にとって過負担にならず、地域貢献に直結できるような活動に参画できるというスキームを構築。導入の可能性を探るため、県や市へ出向き、現在の部活動指導者に関する実態や外部指導者派遣についての情報交換を実施した。

また、経済産業省が進めている「未来のブカツ」ビジョンにおいては、同法人内にある大阪成蹊大学イノベーション研究所が取り組んでいる「部活動における外部指導者の活用事業モデル」として、京都市教育委員会と連携して京都市立中学校に本学学生を外部指導者として派遣することを先行実施した。

京都市内中学校への部活動指導の派遣	
陸上競技	13 名
サッカー	3 名
野球	2 名
バスケットボール	10 名
バレーボール	4 名
派遣者計	32 名

▹*今後の展望*

指導者派遣を介して学生が部活動指導の一部を担当するというスキームを本格導入し、部活動指導の外部委託の多様な方法を社会に示していく。

また、地域におけるスポーツ環境を整備し、子どもたちがそれぞれに適した環境でスポーツに親しめる社会を構築することを目指して、引き続き大学・小中高校・地域との連携を図りながら実現に向けて取り組んでいく。

公開講座の開講
楽しくスポーツに挑戦する機会を提供し、健康に年を重ねるための契機となる。

▷実施概要

継続したスポーツへの興味関心の涵養、意識啓発し、健康に年を重ねるための契機にしてもらうことを目的に、決して無理をしないスポーツへの関わりを担保し、参加者目線でのレベル、内容、運動をいかに日常に落とし込むかという工夫を施した公開講座を開講。

2022年10月から6回にわたり開講した『びわスポ健やかストックウォーキング教室』は、歩く習慣のある人は長寿であることがわかってきたことから、普及が進んでいる運動のひとつとして知られているストックウォーキングを取り入れ、安全で楽しく行うことができるもので、１講座で4kmから時には6kmのウォーキングにチャレンジした。

公開講座	
ストックウォーキング教室	
10/5（水）	参加者計 11 名
10/12（水）	
10/19（水）	
10/26（水）	
11/2（水）	
11/9（水）	

▹*今後の展望*

滋賀には身近に歩いて楽しい場所、心癒される場所が多くあるため、ストックウォーキングとの相性が良く、ストックウォーキングの普及・啓発にも貢献できる可能性があるように、環境も活かしたスポーツとの関わりを追求する。今後も、本取り組みを通して、運動に接することが特別ではなく、日常のルーティンになること、その運動習慣や興味・関心が、ひいては健康寿命延伸に寄与するよう、開講日時や内容などを更に工夫し、様々な講座を開講していく。

文化講演会の開催

継続したスポーツへの興味関心の涵養、意識啓発をし、健康に年を重ねるための契機となる。

▷実施概要

運動を継続するためには、スポーツ・健康に対する興味関心を持続する必要がある。滋賀県開催の国民スポーツ大会・全国障がい者スポーツ大会が3年後に迫っていることを踏まえ、スポーツへの興味関心の涵養、意識啓発のための取り組みとして、著名人による文化講演会を実施。

2022年11月1日、監督としてサッカー日本代表を初のワールドカップ出場に導き牽引し、現在、野外環境教育の運営会社の経営者でもある岡田武史氏を講師に招き、「岡田武史のスポーツ眼～選手と監督、そして経営者として～」をテーマに講演した後、「スポーツの持つ可能性」をテーマに、サッカーJリーグの常務理事を務め、プロバスケットボールBリーグのチェアマンを歴任した本学大河正明学長とのパネルディスカッションを実施した。

文化講演会	
11/1（火）岡田武史氏　講演会	
1 年次生	353 名
2-4 年次生	39 名
企業関係者	48 名
教員	25 名
参加者計	465 名

▹*今後の展望*

スポーツ・健康に対する興味関心を持続させるため、継続的に実施を図る。

また、より多くの参加者が集うよう、実施内容や聴講方法などに工夫を凝らし、例えば、社会課題を解決するスポーツの知見をテーマにしたシンポジウムを、対面とオンライン配信を併用したハイブリッド型で開催するなど、スポーツの持つ新たな可能性を広く共有する場としての意味も持つ文化講演会へと発展させていく。

滋賀レイクスサポーター活動

地元にあるプロスポーツチームの応援を通じて、スポーツへの興味を育むとともに、地域密着型の応援文化の醸成及び地域の振興に繋げる。

▷実施概要

プロスポーツクラブや企業スポーツチームが地域密着型の経営方針をとることが多くなっている中、地域貢献という同じ方向を向いている本学として、まずはチームを知るために試合会場へ足を運び、地元チームを応援するという形でサポートをする風土作りを創造する。これを地域貢献としての新たな関わり方として推進する。

2022年12月3日、Bリーグ滋賀レイクスと「びわこクリーンウォーク」を実施。琵琶湖環境科学研究センターの講師による環境学習を行った後、スポーツを融合させたクリーンウォークを実施。当日は地域住民を含む約200名が参加者し、参加賞としてレイクス応援Tシャツと試合観戦チケットを配付。レイクスと共に活動すること、また応援グッズを手にすることで、応援に行くきっかけとなるよう方向付けた。

滋賀レイクスサポーター活動	
12/3（土）クリーンウォーク	
一般参加者	139 名
本学学生・教職員	48 名
参加者計	187 名

▹*今後の展望*

本取り組みのような、スポーツに環境活動やその他の要素を融合した、新たな地域密着型活動として、事業内容を引き続き追求する。

継続的に実施を図り、地域を振興し、地域活力の向上に寄与する社会連携・地域貢献のモデルケースとして全国へ横展開していく。